

海洋開発サマースクールに参加して

修士1年 小森智己

2019年8月11日から9月8日までの約1ヶ月間、海洋開発サマースクールに参加しましたので、ご報告させていただきます。

このプログラムは、将来海洋開発産業での活躍を希望する学生に向けて、海洋開発に関する知識を身に付けると共に国際的な経験をする機会を与えるための取り組みとして、数年前から毎年開催されているものです。今年は、ノルウェー、オランダ、イギリス、アメリカの4か国の大学に、日本全国から集まった学生がおおよそ10人ずつ派遣されました。私がお世話になったのは、ノルウェー中部の都市トロンハイムにあるノルウェー科学技術大学(Norges teknisk-naturvitenskapelige universitet)です。ノルウェー国内最大の規模を誇り、海洋工学分野に非常に秀でた大学として知られています。



高台から見たトロンハイムの街並み



一番の写真スポット

参加した理由は、卒業研究等を行う中で興味を持った海洋開発業界について、短期間で幅広い知識を得る良い機会になると考えたからです。また、英語を使わざるを得ない状況に身を置いてみたいという思いもありました。

講義では、最初にノルウェーの文化や言語をなど学び、その後は海洋開発へと内容が移りました。浮体の安定性やリスクマネジメント、疲労破壊など、主に石油開発や洋上風力発電に関連する事柄について幅広く学ぶことができました。また、週に一回、先週習ったことをまとめ、5人ずつのグループに分かれて発表と質疑応答をしあう機会があり、講義内容の理解に役立ちました。海洋開発に関連する様々な企業への訪問もさせていただき、各社の業界内における役割や仕事内容を知ることで、海洋開発への理解を深めることができました。海外の会社

を訪問できたという点だけを見ても、非常に貴重な経験であったと思います。

このプログラムを通じて、海洋開発というのは非常に高度な技術が結集されて成り立っている事業であると実感しました。また、事業スケールが大きく、大きな利益を上げることができる反面、環境や金銭の面において大きなリスクが伴うため、発展を推し進めていくためには、企業のみならず行政の協力も重要であると感じました。



講義室にて



企業訪問：equinor

サマースクール期間を過ごした宿は、水周りは共用でしたが寝室は1人部屋でした。他の9人のメンバーとは、一緒にスーパーへ買出しに行き料理をしたり、魚釣りに行ったりすることですぐに仲良くなることができました。宿から徒歩10分程度の場所に良い釣り場があり、体長30cmを超える大きなタラや、セイという魚もたびたび釣ることができました。ノルウェーは物価が高いこともあり、釣った魚は我々の大切な食料となりました。釣り初心者の私にもたくさん釣ることができたので、北欧の海が豊かであるというのは本当の事のように感じます。

現地の学生と交流する機会にも恵まれ、町を案内してもらったり、宿に招いてパーティーをしたりしました。ノルウェー語の早口言葉を教えてもらい、練習し言えるようになった事は非常に印象深い思い出です。また、我々の面倒を見てくださっていたアミール教授夫妻には、ベリーが自生しているハイキングコースや博物館など、本当に様々な場所へ連れて行っていただき、ノルウェーの文化や自然に触れることができました。



一番の大物は私が釣りました



宿でのパーティー

海洋開発サマースクール期間中、石油開発や洋上風力発電など、海洋開発に関するあらゆるテーマについて学ぶことができ、参加前と比べて大きく視野が広がりました。今後の進路を決める上で大きな糧となる一か月間であったと感じています。また、英語での発表や議論をするのは今回が初めての経験でしたが、プログラムが進むにつれて僅かながらも上達することができました。同時に、さらなる英語学習の必要性も強く感じました。今回の経験を活かし、将来エンジニアとしてグローバルな活躍ができるよう、今後も邁進していきます。

最後になりましたが、この度多大なご支援をしていただきました日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアムの方々、我々を温かく迎えて下さったアミール教授夫妻はじめ NTNU の皆様、1ヶ月間を共に過ごした9人のメンバーに心より感謝申し上げます。



最終日には学んだことを踏まえて各々が
自由なテーマで発表を行いました



マラソン大会にも参加